# 地域おこし協力隊 活動報告

地域活性化の使命を担う「地域おこし協力隊」。占冠村では現在４人の隊員が日々精力的に活動しています。それぞれの活動状況についてご報告します。

大岩（おおいわ）　未希（みき）　隊員
所属：福祉子育て支援課子育て支援室

令和４年５月より協力隊として占冠保育所で勤務しています。

占冠に移住して約４年が経ち、夏の自然や冬の厳しさを肌で感じて過ごしてきました。年に一度は帰省していましたが、いつの日からか「早く北海道に戻ってのんびりしたい」と思うようになり、村での生活は私にとって居心地が良く、帰る場所となっていました。東京では味わえなかった、窓から緑が見える環境に喜びを感じながら過ごしています。

今年度は１歳児を担当しました。子どもの発達に合わせながら生活リズムを整えたり、興味のある遊びを深めたりしました。最近は他クラスとの交流も増え、友達の遊びに参加したり、自分の思いを伝えようとしたりする姿が見られ、心身の成長を見守っています。

保育所内にある交流コーナーでは子育て支援事業が行われています。入園前のお子さんやその保護者、妊産婦さんが利用でき、毎月さまざまなイベントや講習が企画されています。今年度は園児と一緒に交流コーナーで遊ぶ機会が増え、入園前のご家庭や担当職員との交流ができました。子どもの成長を喜び合ったり、保育所での生活を伝えたりと親睦がより一層深まったと感じています。今後も交流を楽しみながら、子ども一人一人に応じた共感的な関わりをしていきたいと思います。

鈴木（すずき）　知克（ともかつ）　隊員
所属：企画商工課商工観光担当

令和６年７月より地域おこし協力隊として占冠・村づくり観光協会で勤務しています。この１年間、観光協会の業務全般を経験しました。

ふるさと祭り、紅葉まつりでは、イベントの計画・準備および当日の運営を担当させていただきましたが、初めての経験でとても大変でした。しかし、イベントに携わる関係者の皆さまに優しく教えていただき、協力してくださったおかげで無事に最後までやり遂げることができました。

また、村外で開催される数多くのイベントにも参加しました。「大ほっかいどう祭り」と「占冠村観光物産展」では、村の特産品の対面販売を行う際に観光ガイドブックを配布、同時にふるさと納税のチラシを手渡しながら、村の観光・物産のPRを行いました。そのほかに「道の駅南ふらの感謝祭」、道北の「うまい！」が勢ぞろいの「冬の地場産フェア」では、上川中南部七つの道の駅が連携し、一つのブースでそれぞれが地元の特産品の販売と観光PRを行いました。このイベントに参加した各道の駅の担当者から、それぞれの道の駅の特徴や工夫などについて直接お話を伺うことができ、とても参考になりました。

新たに築いた人脈を大切にし、道の駅での業務はもちろん、今後の地域おこし協力隊としての活動にも生かしていきたいと思います。

田中（たなか）　仁（さとし）　隊員
所属：企画商工課商工観光担当

令和６年６月より地域おこし協力隊として占冠山村産業振興公社で勤務しています。主な業務は、占冠村の特産品である山菜加工品（主にフキ）の製造です。また、年に２回ほど、観光協会の皆さんと一緒に札幌市で行われるPRイベントにも参加しています。

工場では、原材料の保管から下処理、製造までの流れに携わっています。繁忙期は４月、６月から７月、11月で、特に長期休みの前は製造が立て込みます。体力的に一番大変なのは、６月から７月にかけて新フキを塩蔵庫に入れていく作業です。気温が上がる中での作業は負担も大きく、職場の皆さんからは「毎年この時期は痩せる」と聞いていましたが、私は逆に10キロほど増えてしまい、今も体重が戻っていません。今年こそ、健康的に体を整えたいと思っています。

PRイベントでは、ゆるキャラの「しむかっぴー」に根強いファンが多く、しむかっぴーに会うためにわざわざ足を運んでくださることに感動しました。これからも山菜加工品をはじめ、占冠村の魅力を多くの方に知っていただけるよう、情報発信にも力を入れていきます。

３年目となる今年は、協力隊として最後の任期です。工場でもイベントでも、占冠村のために「何かを残せた」と思えるような活動をしていきたいと考えています。



小田中（おだなか）　温（あつし）　隊員
所属：農林課林業振興室

令和７年４月より地域おこし協力隊として役場農林課林業振興室に勤務し、ヒグマやシカをはじめとする野生鳥獣の調査、出現対応、広報作成等に取り組んでいます。

昨年は道内でヒグマによる人身被害が相次ぎ、各種媒体でも大きく取り上げられました。村内では秋に出現件数が増加したものの、全体としては比較的落ち着いた状況でした。出現対応を行う場面もあり、現場では常に緊張感を伴いますが、人身の安全を最優先に、関係機関と連携しながら対応に当たっています。

シカについては、ライトセンサス調査を行い、その生息数の多さを実感しました。夜間の調査では一度に多数の個体を確認する場面もあり、地域における生息状況の現状と課題を改めて認識しました。昨年末からは村の有害鳥獣駆除の従事者として活動を開始し、現場での経験を重ねています。今後は駆除に加え、生息状況の把握や食肉利用の推進にも取り組んでいきたいです。

そのほか、鳥類やアライグマ等への対応も行っています。広報紙の「野生動物対策の状況」や折り込みチラシ「ヒグマについて」の一部作成にも携わり、目撃・痕跡情報を整理しながら、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。

今後も知識と対応力の向上を図り、住民の皆さまの安全確保に努めてまいります。